

2024年関西元気文化圏賞 贈賞理由

大賞

グラングリーン大阪

大阪の玄関口となるうめきた2期地区「グラングリーン大阪」は、JR大阪駅直結の便利な立地に、大規模ターミナル駅直結としては世界最大級の規模を誇る都市公園「うめきた公園」や多彩な商業施設、企業・大学・研究機関が集まる産官学民の交流拠点施設、宿泊施設やオフィス機能が備わり、地域の経済活性化や国際競争力強化に寄与している。2025年3月には南館もオープンし、関西全体に明るい話題として今後ますますの発展が期待される。



©Akira.Ito.aifoto

特別賞



かみじ ゆい

上地 結衣 (車いすプロテニス選手)

兵庫県明石市出身。11歳で車いすテニスを始める。2014年、全仏、全米オープンで初優勝、同年「女子車いすテニス最年少年間 グランドスラム」のギネス記録に認定された。リオデジャネイロ・パラリンピックでは女子シングルス銅メダル。東京・パラリンピックではシングルス銀メダル、ダブルス銅メダルを獲得。2024年開催のパリ・パラリンピックでは、シングルス、ダブルスともに金メダルと、前回大会を上回る活躍を見せ、多くの人に感動を与えた。

こう べ す ま

神戸須磨シーワールド

須磨海浜公園再整備計画の一環として、「神戸市立須磨海浜水族園」の跡地に新たな水族館として2024年6月1日グランドオープン。西日本唯一のシャチのパフォーマンスをはじめ、世界初のシャチ専門の教育ゾーン「オルカラボ」、瀬戸内海の自然環境を再現した「ローカルライフ」の展示など見どころ満載で、エリアの魅力度アップとともに、観光誘客の核となる施設として、さらなるにぎわいの創出にも貢献することが期待される。



提供:神戸須磨シーワールド

ニューパワー賞

みやじま みな

宮島 未奈 (小説家)

京都大学文学部卒業。滋賀県大津市在住の小説家。デビュー作の『成瀬は天下を取りに行く』は、続編『成瀬は信じた道を行く』と合わせてシリーズ累計100万部を突破する大ヒット作を生み出した。2024年本屋大賞を受賞。作品の舞台は滋賀県大津市で、ご本人自身は地元イベントやメディア等に多数出演し、滋賀のPRに尽力している。実際に作品の舞台となった地元への観光客が急増するなど、地域活性化にも大きく貢献しており今後の活躍が大いに期待される。



たま い りく と

玉井 陸斗 (飛込選手)

兵庫県宝塚市出身。JSS宝塚所属。6歳の時に体験会への参加をきっかけに飛込をはじめた。シニア大会に初出場した2019年日本室内選手権飛込競技大会では12歳7カ月で史上最年少優勝、中学3年生で出場した東京オリンピックでは日本勢として21年ぶりの決勝進出と、さまざまな記録を打ち立てる。2024年開催のパリオリンピックでは、高飛込の決勝で507.65点をマークし、銀メダルを獲得。日本勢として飛込競技では男女通じて初の五輪メダル獲得となり、今後さらなる活躍が期待される。



きょう と こく さい

京都国際高等学校 硬式野球部

第106回全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)にて初優勝。在日韓国人向けの民族学校を前身に、2004年度から日本人にも門戸を開き中高一貫校として開校。グラウンドは両翼70メートル



に満たず、必ずしも充実した練習環境ではないなか、2008年に小牧監督が就任後、個人の能力向上に力を注ぎ、プロ野球選手11人を輩出。甲子園出場は春夏計5度目にして初優勝をつかみ、関西から日本中に元気と感動を与えた。

いい むら かず き

飯村 一輝 (フェンシング選手)

京都府京都市出身。太田雄貴選手を教えた父の下、小学校1年生からフェンシングを始める。小中高で日本一を経験。2022年に世界ジュニア選手権で優勝を果たすと、続くワールドカップでも日本人最年少での銅メダルを獲得。2024年開催のパリオリンピックでは、個人では惜しくも4位だったものの、男子フルレ団体では決勝アンカーを務め、持ち前のスピードと積極的な戦いにより、この種目では初となる金メダル獲得という快挙を成し遂げた。今後の日本フェンシング会を牽引する活躍が期待される。



©(公社)日本フェンシング協会